



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第19回)



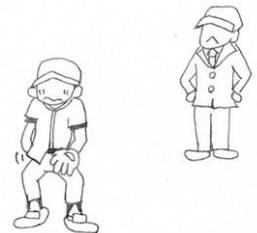
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 気になるユニフォームの乱れ

スライディングやダイビング捕球の後、上着の裾が出たままなのに気づかないのでしょうか? すぐに直そうとせず審判員から注意を受ける選手がいました。

夏のユニフォームは素材も軽く、化学繊維の混紡などから滑りやすいのかもしれませんが、また、汗の多い時季はくっついておさまりにくいこともあるでしょう。そうは言っても大切な「身だしなみ」、マナーの根幹に関わる事柄です。同様に、アンダーシャツを着替えた後の点検、また、ポケットの内袋が出たままになっているのも注意しましょう。審判員や本部役員が声をかけることもあります。目に見えることに関してまずは自分自身、仲間同士で気をつけたいものです。



ルール編 走塁を妨げられた走者にプレイが行われていなかった場合

一死で走者二・三塁、打者は二塁前に内野安打で三塁走者は生還、この時、二塁走者は三塁手前でボールを持たない三塁手と交錯し、三塁審判はその状況を指さしていました。プレイが一段落して4人の審判員が集まった後、一死走者一・三塁で再開しました。この試合を中継していた放送局の実況アナウンサーがこのプレイの説明を解説者に聞いたところ、解説者は「これは走塁妨害ではありません」と答えていましたが…?

規則 7.06 は” オブストラクション=走塁妨害” について規定しています。

(a) 項では、「走塁を妨げられた走者にプレイが行われている場合」を、
(b) 項では、「走塁を妨げられた走者にプレイが行われていなかった場合」が示されています。

(a) 項は、高校野球特別規則 19 で明記している〈捕手の本塁上でのプレイ〉や〈挟撃プレイ中の走塁妨害〉などで、「オブストラクション発生時すでに占有していた塁よりも少なくとも1個の進塁が許される」のです。

上記のプレイは (b) 項に該当するケースで、「審判員はプレイが終了するのを見届けた後に、はじめて” タイム” を宣告し、**必要とあれば、その判断で走塁妨害によって受けた走者の不利益を取り除くように適宜な処置をとる**」規定を正しく適用したものです。したがって解説者の「走塁妨害ではありません」といのは誤りで、「**確かに走塁妨害はあったけれど、(b) 項に該当する処置**」であることをコメントすべきでした。

春・夏の甲子園大会では、場内放送やスコアボードに電光掲示することで規則の適用を示すことがあります。両チームはもとより、居合わせた人たちが正しい高校野球を理解するためにも、関係者は常に研鑽しなければなりません。

